

6次産業化、農村文化体験、地産地消、雇用、移住・定住、高齢者の活躍、女性の活躍

地域まるごと！笑顔でつなげる地域循環カフェ

活動の経緯

令和元年度代表の土井智子が檜原村地域おこし協力隊として夫婦で着任し、檜原村に移住。「晴ノ舎」としてインターネットショップを開設し地元工芸作家のサポートを行う。協力隊任期満了後、村登録有形文化財の公開活用事業として、檜原村の指定管理者となりカフェを運営し、村人と来村者(移住者)とを交流を通して繋げる活動に取り組む。

活動の概要

「自然環境」「村人」「歴史」「地元野菜」「村に生きる人の知恵」「移住者」を活かした地域循環型カフェを拠点に地産地消の食事提供、地元散策エコツアー、特産品じゃがいもなどの農作物収穫体験ワークショップの開催、マルシェの開設などを実施。



村人ガイドの人里散策ツアーの様子



移住者と村人が手仕事をしながら交流

活動の成果、主な実績等

○カフェでは特産品のじゃがいもをはじめ、地域の人が作る野菜を中心とした「季節のランチセット」をメインに食事提供を行うほか、今まで使われずにいた野菜や規格外の野菜を調理用や食品加工用に活用。令和4年度はカフェの来客数は約6,600人、ランチセット販売数は5,200食に達する一方で、産直の売れ残りをなくし、高齢者のいきがいを創出している。

○エコツアーやワークショップは、地域に生まれ育った村人がガイドとなり開催し、1年間で計13回60人が参加。

○移住者であるスタッフが地域に住み、お祭りやイベントや自治会、地元団体の活動に参加し、村人と自然に関係性を構築。地域の歴史や暮らしを学び、次世代へと繋ぐ役割をしている。